

謹賀新年



宜野湾市議会議員 ごや ひとし 吳屋 等



宜野湾市長 さきま あつし 佐喜眞 淳

明けましておめでとうございます。

令和7年の輝かしい幕開けを迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

旧年中は、本市議会活動に対し、格別の御支援と御協力を賜り、お陰をもちまして活発な議会運営を行うことができましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、2024 年を振り返りますと、様々な出来事がありました。中でも、本市で春季キャンプを行っている横浜 DeNA ベイスターズが 26 年ぶりに日本一に輝いたニュースは、私たちにたくさんの元気と、未来を担う子どもたちへ大きな希望を与えてくれたことと思います。

本市は、普天間基地跡地利用の先行モデル地区として、沖縄振興はもとより、日本経済をけん引する、限らない発展の可能性を秘め、世界に誇れる跡地利用の計画が待ち望まれております。いよいよ本年1月には、キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地において、沖縄健康医療拠点の核である琉球大学病院の開院と、4月には同大学医学部が開学となります。

さらに観光振興においては、本市西海岸地域において現在建設中の8千人規模の屋外劇場、宜野湾海浜公園、沖縄コンベンションセンター並びに宜野湾港マリーナなどを一体として捉えた観光拠点のまちづくりも将来性を感じさせるものであります。

市議会としましては、議会改革の一環として、議会の活動状況を報告するとともに、市民の声を市政に反映させることなどを目的に、毎年5月頃に議会報告及び市民との意見交換会を開催しております。またインターネット上においても意見を募り、昨年は併せて99件の貴重な御意見を市政の課題として捉え、議会で調査や検証を行い、政策立案や市長への提言に繋げてまいりました。

本年も、議会の最高規範となる「宜野湾市議会基本条例」を基に、二元代表制の一翼を担う、市議会の果たすべき役割に全力を尽くしてまいりますので、皆様のなご一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本市のますますの発展と、本年が皆様にとりまして、輝きと飛躍に満ちた素晴らしい年になりますよう祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。

令和7年 新春

輝かしい希望に満ちた新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は本市政へのご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

私は、昨年9月に行われた市長選挙において「松川市政継承 想いをひとつに 宜野湾がいちばん」を掲げ当選し、市長という重責を再び務めさせていただくことになりました。

本市の最大の懸案事項である普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還、速やかな運用停止については、国に対して、返還期日の早期確定や返還までの間の危険性除去、目に見える形での基地負担の軽減、返還後の跡地開発などについて、引き続き強力に求めてまいります。

西普天間住宅地区につきましては、本年1月に琉球大学病院が開院、4月に大学医学部が開学する予定です。基地跡地利用の先行モデル地区として、琉球大学や民間企業と連携した健康増進事業やウォーカブルなまちづくりなど『沖縄健康医療拠点』に関する取り組みを進め、全ての市民が「自然に健康になれるまち」を目指します。

こども政策は私の重視する政策です。令和7年度より新たに「こども部」を設置し、学習支援や生活支援、居場所づくりなどこどもの貧困対策、学校給食費の助成事業、児童センター未設置の小校区の解消に向けた取り組みなどの事業を強力に推進してまいります。

また、普天間飛行場周辺まちづくり事業として、普天間地区においては、山田真山画伯の平和祈念像原型を活用した交流拠点施設、真栄原地区においては子育てや健康増進機能等を備えた交流拠点施設の整備などに取り組み、各種交流や地域の活性化に貢献できるまちづくりを目指します。

西海岸地域におきましては、現在建設中の8千人規模の屋外劇場の機能も踏まえながら、都市型観光拠点化を強力に推進いたします。

本年も、市民一人ひとりが幸せを感じられるような宜野湾市を職員一丸となって目指してまいりますので、市政運営に対するご理解とご協力を賜りますとともに、新しい年が皆様にとって幸多き年となりますことを心から祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。

令和7年 新春